

平成 23 年 3 月 12 日

空手で苦しかったこと

西東京本部 浜田山支部

内田由規

空手を始めて三年が経ちました。

主人と子供たちがあまりに楽しそうに空手に取り組んでいる姿、同じ道場の方々が真剣に空手と向き合っている様子を見て、同じ仲間になりたいなと思い、入会を決意しました。

途中、空手と家事に忙殺され、とにかくゆっくりに休日過ごし、練習を休んだこともありました。何より苦しかったのは、そうして休んだときに覚える後味の悪さ、後ろめたさに向き合うことでした。なぜこんな想いをしながら、続けられないのかと思つたことも一度ならずありました。

それを乗り越えて続けることができたのは、入るきっかけにもなった家族や友人の存在でした。空手を通して得た絆が、続ける原動力となり、その継続がまた新たなモチベーション

ンを生みつつあります。

空手の型に取り組んでいるときの緊張感の心地よさ。日常の雑事を忘れ、ただひたすらに型の練習をしているその瞬間が、大事になってきているようです。

これからよろしくお願いたします。